

世界に向けたおもてなしの発信

筑波大学客員教授 江上いずみ

1. 日本国内におけるオリンピック・パラリンピック教育

2013年9月にオリンピック・パラリンピックの招致が決まり、2014年度から開催都市である東京都を中心にオリンピック・パラリンピック教育が始まった。オリンピック・パラリンピック教育を通じて、子どもたちがスポーツの価値やオリンピック・パラリンピックの意義に触れることは、東京2020大会に向けた全国的な機運の醸成のみならず、それ以降の東京大会の有形・無形のレガシー創出に向けてきわめて重要な取組だといえる。

開催都市東京では、2014年度に都内の300校を「オリンピック教育推進校」に指定した。2015年度には「オリンピック・パラリンピック教育推進校」と名前を変え、600校を推進校に指定した。その趣旨は「2020年東京大会開催を踏まえ、幼児・児童・生徒が、

- ・スポーツにより心身の調和的な発達を遂げ
 - ・オリンピック・パラリンピックの歴史・意義や国際親善などその果たす役割を正しく理解し
 - ・我が国と世界の国々の歴史・文化・習慣などを学び交流すること
 - ・またそれらを通して国際理解を深め、進んで平和な社会の実現に貢献すること
- と記されている。

このような教育の必要性は指定校に留めることなく、東京都全体で実施することが重要であるという認識から、翌2016年度からは都内2300校全校がオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定され、年間35時間のオリンピック・パラリンピック教育が実施されている。

さらに、オリンピック・パラリンピック教育は、開催都市のみならず、東京2020大会を成功させることを目的に、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として全国で展開されている。

2019年度においては、34道府県、11政令都市を含めた全国の45地域を、筑波大学、日本体育大学、早稲田大学が連携して、推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践を支援している。

こういった日本国内におけるオリンピック・パラリンピック教育においては、ホスト国の国民として、どのように外国の方々をお迎えし、「おもてなし」を施していくかを学ぶことも重要なものの一つと言える。

2. 外国人に向けた日本文化の伝達

来日した外国人が、日本でいかに心地良く過ごすことができるかは、ホストの努力はもちろん大切だが、事前に諸外国の方々に、日本の文化や習慣、しきたりを知っていただくことも大切であると思われる。

そのような視点から、これまで以下のような国から依頼を受けて「Japanese Culture and OMOTENASHI」というテーマの講演を手掛けてきた。

2015年2月 カタール・ドーハ：オリンピック委員会およびアスパイアアカデミー

2015年3月 フランス・パリ：国立社会科学高等学院

スイス・ローザンヌ：スポーツマネジメント大学院 (AISTS)

2015年6月 アゼルバイジャン・バクー：第1回ヨーロッパ競技大会組織委員会

2016年3月 タジキスタン・ドゥシャンベ：国立体育研究所

2016年8月 ブラジル・サンパウロ：サンパウロ大学

2017年2月 インド・デリー：マナブラチャナ国際大学

2017年4月 チュニジア・チュニス：大使館・外交官養成機関

2017年11月 イタリア・ミラノ：イタリアスポーツ教育協会

2018年3月 韓国・ピョンチャン：ヨンイン大学

2020年2月 インド・ニューデリーおよびパティアラ：インドスポーツ省

海外における講演時は、必ず和服を着て登壇することになっている。日本の着物を見るだけで、聴講する人々は嬉しそうに眺め、日本の文化を深く感じてくださる。

おもてなし文化を紹介する諸外国におけるこういった講演は、2020年が近づくにつれ、日本人の思いやりや心づかいといった精神性に対する関心が高まってきたことが感じられた。

大会に出場するアスリートにとって、日本の風土や習慣を知った上で競技に参加することは、さらに競技者としてのパフォーマンスを向上させることに繋がると考えられるようになってきた。

そのような視点から、このほど、インドのトップアスリートを対象に日本のおもてなし文化や精神性を理解するためのワークショップを開催したいと、インドスポーツ省より招請を受け、渡印した。



2016年3月タジキスタン講演の様子

3. インド講演の実際

インド・オリンピック委員会 (IOA) の協力のもと、インドスポーツ省 (SAI) によって開催されたインド講演は、東京2020大会に参加予定のインドのオリンピック・パラリンピックを目指すアスリート、コーチ陣およびスポーツ省の方々が対象で、「ROAD TO TOKYO 2020: Japanese cultural sensitivity workshop OMOTENASHI」と名付けられた。

インドの方々は礼儀をととても大切にしている。そのような気質から、彼らが最初に学びたいと希望したのは、日本人に対する「挨拶の仕方」であった。

インドでの挨拶は「ナマステ〜」と言いながら手を合わせ、相手の目をしっかり見てお辞儀をする。それに対し、日本のお辞儀は、武士が主君の前で土下座をするように、急所である頭頂部を見せることで、相手に対する服従や敵意がないことを示すものなので、しっかりと頭を下げ、目を伏せてお辞儀をすることがマナーであることを伝えた。



2020年2月パティアラでの講演

そして英語やヒンディー語にはその直訳する言葉がない「よろしくお願いたします」というフレーズを教えたところ、聴講するアスリートたちが口を揃えて「Yoroshiku Onegaishimasu」と言ってからお辞儀をする「分離礼 (先言後礼)」で挨拶をした。

また1日のうちの時刻によって「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と言葉が変わることや「さようなら」「おやすみなさい」「いただきます」「ごちそうさまでした」と様々なシチュエーションによって挨拶の言葉があること、「ありがとう」「どういたしまして」「ごめんなさい」「どうぞ (=After you.)」などの基本的な声掛けを伝えたところ、一つひとつメモを取りなが



2020年2月パティアラでの講演

ら丁寧に発声していた。

さらに日本において初対面の人との挨拶時に必ず行われる「名刺交換」は未知の世界なのでそのやり方を知りたいと、名刺の渡し方、受け取り方、同時に交換するときのマナーなどについても体得しようと努力していた。

選手陣のほとんどは初めて日本を訪れる人なので、Suicaなどの交通系 IC カードの購入方法や使い方、電車の乗り方やマナー、日本に来たら一度は訪れるであろう温泉でのマナーや日本家屋におけるお風呂の入り方について、動画を見ながら楽しく学んでいた。

そして何よりも彼らが一番知りたがったことは、和食を食べる際のマナーだ。全員に割り箸を配り、その割り方や持ち方を学んだあと、輪ゴムやビーズをお皿に入れて箸でつまむ練習を、ある人は器用に、ある人は苦笑いしながら一生懸命練習していた。

このインドスポーツ省主催によるワークショップはキラン・リジジュ (Kiran Rijju) スポーツ担当国務大臣が出席するとあって、新聞・雑誌・テレビ局など多くのメディアが集まった。

そのリジジュ国務大臣は依然より日本の文化や礼儀をとっても興味深く思っており、幾度となく日本を訪れたことがあるという。着物の文化を紹介し、彼に長襦袢・着物・羽織といった大島紬のアンサンブルを気付けたところ、とても感激してくださり、以下のようなスピーチをした。

「日本の文化など伝統的価値はとて高く、それを尊敬することは我々の役目です。君たちアスリートたちは自身だけでなく、インドを代表する存在でもあります。トイレやお風呂でのマナーや公共交通機関の使い方といったことを知らないと、トラブル遭遇や君たち自身の困惑につながります。このワークショップは君たちに日本で過ごすための基礎を教えてくださいました。我々インドスポーツ省 (SAI) は、インド・オリンピック委員会 (IOA) と協力して、アスリートをしっかりとサポートしていくつもりです。インドの哲学は日本で形となることでしょう。スポーツ面で活躍し、さらに日本との繋がりを深めていってほしいと思います」 (2月28日発行 The NEW INDIAN EXPRESS)

このスピーチと着物を着たリジジュ国務大臣の姿は、新聞やテレビなどでインド全土に伝えられた。

着物はリジジュ国務大臣のみならず、インドのアスリート誰もが興味を持ち、手を通してみたいと願ったことから、日本から持ち込んだ数枚のゆかたをアスリートに着付けたところ、たいへん喜び、各々携帯で写真を撮っていた。

レスリングのラビ・クマール (Ravi Kumar Dahiya) 氏とディーパック・プニア (Deepak Punia) 氏は大臣の言葉に同意し、現地のメディア ABP LIVE に次のようにコメントした。

「今年の夏、東京で過ごすにあたって、日本人をよりよく理解するために、このワークショップはとて役に立つと思います。」

また、射撃のアビシェーク・ベルマ (Abhishek Verma) 氏は、

「選手たちが東京大会の選手村に入る前にこのワーク



2月28日発行 The NEW INDIAN EXPRESS



2020年2月ニューデリーでの講演
(中央がリジジュスポーツ担当国務大臣)



2020年2月ニューデリーでの講演
(ゆかたを着て喜ぶインド人アスリートたち)

ショップを受けたことにより、よりよい準備ができていると思う。ワークショップに参加したことで、日本における文化的エチケットがとても重要であり、美しいことがわかった。」とコメントした。

終了後に多くのメディアは、新型コロナウイルスの影響で東京オリンピック・パラリンピックはどうなるのか、と真田教授に問い詰めた。するとリジジュ大臣がそれらの質問を遮るように一歩前を出て、「新型コロナウイルスの問題は人類共通の問題であり、日本のみならず、我々インドも協力して大会が開催されるように努力しなければならない」と答えた。この言葉に、大臣の私たちに対する思いを感じることができた。

参加したアスリートたちは、まだ東京 2020 大会の延期が決まっていないこの時点において「新型コロナウイルスは心配だけど、私たちは日本で活躍できることを信じて一生懸命練習に励みます」と言ってくださり、彼らのためにも何とか東京 2020 大会を実現させたいという思いを強くする講演会となった。



インド講演案内のバナーの前で

Outgoing Hospitality: ‘Omotenashi’ to the World

Izumi Egami, Visiting Professor, University of Tsukuba

1. Olympic and Paralympic education in Japan

In September 2013, the Olympic and Paralympic Games were decided, and in 2014, the Olympic and Paralympic education began centering on the host city of Tokyo. Through the Olympic and Paralympic education, it is not only the children's exposure to the value of sports and the significance of the Olympic and Paralympic Games that cultivate nationwide momentum for the Tokyo 2020 Games, but also the tangible and intangible legacy of the Tokyo Games thereafter. It can be said that this is a very important effort toward its creation.

In the host city of Tokyo, 300 schools were designated as "Olympic Education Promotion Schools" in FY2014. In FY2015, the name was changed to "Olympic and Paralympic Education Promotion Schools" and 600 schools were designated as promotion schools. The intent of this is to say, "In light of the fact that the 2020 Tokyo Games will be held,

- Achieve harmonious physical and mental development through sports
- Understand the history and significance of the Olympics and Paralympics and their role in international friendship.
- Learn and interact with the history, culture and customs of Japan and other countries of the world
- Through these efforts, we will deepen international understanding and contribute to the realization of a peaceful society.

With the recognition that it is important to carry out such education in Tokyo as a whole, without limiting it to designated schools, all 2300 schools in Tokyo will be designated as Olympic and Paralympic education promotion schools from the next fiscal year 2016. 35 hours of Olympic and Paralympic education are conducted every year.

Furthermore, the Olympic and Paralympic education is being developed nationwide, not only in the host city, but also as a "National Olympic and Paralympic Movement Development Project", a project commissioned by the Sports Agency for the purpose of making the Tokyo 2020 Games a success.

In FY2019, University of Tsukuba, Nippon Sport Science University, and Waseda University are collaborating in 45 regions nationwide, including 34 prefectures and 11 ordinance-designated cities, to support the practice of Olympic and Paralympic education at the promotion schools.

In this kind of Olympic and Paralympic education in Japan, it can be said that it is important to learn how to welcome foreign nationals and provide "hospitality" as a host nation.

2. Transmission of Japanese culture to foreigners

It is of course important for the host to make efforts to make the foreigners who come to Japan feel comfortable in Japan, but it is also important for foreigners to know in advance the culture, customs and practices of Japan.

From such a point of view, I have been working on the theme of "Japanese Culture and OMOTENASHI" at the request of the following countries.

- February 2015 Qatar Doha: Olympic Committee and Aspire Academy
- March 2015 Paris, France: National Institute of Higher Social Sciences
Lausanne, Switzerland: Graduate School of Sport Management (AISTS)
- June 2015 Azerbaijan Baku: 1st European Games Organizing Committee
- March 2016 Dushanbe, Tajikistan: National Institute of Physical Education
- August 2016 Sao Paulo, Brazil: University of Sao Paulo
- February 2017 Delhi, India: Manav Rachna International University
- April 2017 Tunisia Tunis: Embassy / Diplomatic Training Institution
- November 2017 Milan, Italy: Italian Sports Education Association
- March 2018 Pyeongchang, South Korea: Yongin University
- February 2020 New Delhi and Patiala, India: Ministry of Youth Affairs and Sport of India

When I give a lecture abroad, I always wear Japanese clothes and come to the stage. Just by looking at the Japanese kimono, the audience will be happy to see and feel deeply about the Japanese culture.

It was felt that these lectures in foreign countries, introducing the hospitality culture, increased interest in the spirituality of Japanese people such as compassion and consideration as 2020 approached.

For athletes participating in the tournament, it has come to be considered that participating in the competition after knowing the Japanese climate and customs will lead to further improvement in their performance as athletes.

From such a viewpoint, I recently received an invitation from the Ministry of Youth Affairs and Sports of India and went over to India to hold a workshop for top athletes in India to help understand the Japanese hospitality culture and spirituality.



State of Tajikistan lecture in March 2016

3. Indian lectures

With the cooperation of the Indian Olympic Committee (IOA), the India Workshop held by the Ministry of Youth Affairs and Sports (MYAS-SAI) of India will be presented to athletes, coaches aiming for the Olympic and Paralympic Games, in India who will participate in the Tokyo 2020 Games. It was named “ROAD TO TOKYO 2020: Japanese cultural sensitivity workshop OMOTENASHI” for the people.

Indians place great importance on courtesy. Given that disposition, the first thing they wanted to learn was the “way of greeting” in Japanese.

When saying a greeting in India, say “Namaste ~”, put your hands together, look at the other person’s eyes and bow. On the other hand, Japanese bowing shows that there is no obedience or hostility to the other party by showing the top part of the head, which is a vital point, like a samurai sitting down in front of his master, so bow his head firmly; bowing with his face down is a good manner. And when I taught the phrase “Thank you very much”, which has no direct translation in English or Hindi, the athletes were listening saying “Yoroshiku Onegaishimasu” and bowing, “Separate thanks (Greetings)”. There is a word of greeting by the “good morning”, “Hello”, “Good evening” and the words “goodbye”, “Good night”, “you will” and that vary with the various “I’m Done-Did” situations. On Day 1, when I told them basic messages such as “Thank you”, “Welcome to you”, “I’m sorry”, “Please (= After you.)”, they spoke carefully while taking notes one by one.

Furthermore, in Japan, the “business card exchange” that is always carried out when greeting a person you meet for the first time is an unknown, so I want to know how to do it, and also



Lecture at Patiala in February 2020



Lecture at Patiala in February 2020

try to understand how to hand over and receive business cards and manners when exchanging at the same time.

Most of the players will be visiting for the first time to visit Japan, so how to buy and use transportation IC cards such as Suica, how to ride trains and manners, manners at hot springs and Japanese houses that you will visit once in Japan; and the participants enjoyed learning how to take a bath while watching the video.

And most of all, what they wanted to know was the etiquette of eating Japanese food. After giving the wooden chopsticks to everyone and learning how to split and hold them, some people practiced with skill and some with a bitter smile, practicing putting rubber bands and beads on a plate and pinching with chopsticks.

Shri. Kiren Rijiju, the Minister of State for Youth Affairs and Sport, attended the workshop sponsored by the Ministry of Youth Affairs and Sports of India (SAI), and various media outlets such as newspapers, magazines and TV stations gathered.

The Minister of State, Shri. Rijiju is still very much interested in Japanese culture and courtesy, and has said that he has visited Japan many times. When I introduced him to the culture of kimono and remarked to him of the Oshima Tsumugi, such as Nagatsuja, Kimono and Haori, he was very impressed and in his speech he mentions.

“Traditional values such as Japanese culture are very high, and it is our role to respect them. You and the athletes represent India as well as themselves. Manners in toilets and baths and public transportation and if you don't know how to use them, you will run into trouble and create your own confusion. This workshop teaches you the basics of how to behave in Japan. • In cooperation with the Olympic Committee (IOA), we will firmly support athletes. The Indian philosophy will take shape in Japan. I will play an active part in sports and deepen the connection with Japan. I want you to also do it” (Published February 28, The NEW INDIAN EXPRESS)

The speech of Minister of State, Shri. Rijiju speech and wearing his kimono was broadcast throughout India through newspapers and television.

Kimono was not only worn by the Minister of State, Shri. Rijiju, but also the athletes in India who were interested, and wanted to experience wearing it. The wrestlers Ravi Kumar Dahiya and Deepak Punia agreed with the minister's words and commented on the local media ABP LIVE:

"I think this workshop will be very helpful in helping us to better understand the Japanese as we spend this summer in Tokyo."

Also, Abhishek Verma of shooting,

“I think we are better prepared by having this workshop before the athletes enter the Olympic Games Village at the Tokyo Games. By attending the workshop, cultural etiquette in Japan is very important. I found it beautiful”.

At the end, many media personel asked Professor Sanada what would happen to the Tokyo Olympics and Paralympics due to the new coronavirus. Then Minister Rijiju took a step forward to block these



Published on February 28 The NEW INDIAN EXPRESS

Published on February 28, The NEW INDIAN EXPRESS)

The speech of Minister of State, Shri. Rijiju speech and wearing his kimono was broadcast throughout India through newspapers and television.



Lecture in New Delhi, February 2020 (Central Minister of State in charge of Sports, Kiren Rijiju)

Then Minister Rijiju took a step forward to block these

questions and said, “The problem of the new coronavirus is a problem common to all humankind, and not only Japan but we India are working together to hold the tournament. I have to do it”. These words made me feel the minister's feelings toward us.

The athletes who participated said, “At this point in time that the Tokyo 2020 Games have not been postponed yet, we are worried about the new coronavirus, but we believe in being able to play an active role in Japan and work hard”. It was a lecture to strengthen the desire to realize the Tokyo 2020 Games for them.



Lecture in New Delhi, February 2020
(Indian athletes who are happy wearing Yukata)



In front of the banner of Indian Workshop - Lecture